

◆主要ニュース◆

- 愛知県・岡崎公園内の喫煙所を整備(愛知県組合岡崎支部とJT愛知支社)/回顧・2022年の主な出来事……………2面
- 加熱式たばこ「次世代」から「新時代」へ/加熱式たばこに関する意識調査/JTの話題(「防災喫煙所イッモシモステーション」・東京都錦糸町駅喫煙所のリニューアル)……………3面
- 3月の春季全国火災予防運動・TIOJがたばこ火災防止キャンペーン/「たばこの出合い」/新・煙草知新……………5面
- 組合創立75周年記念で美化活動を実施(愛媛県・松山組合)/20歳未満喫煙防止対策協議会と啓発街頭イベントを実施(大分県組合)/播磨国総社でクリーンキャンペーン/茨城県における各市町首長に対する対談活動/JTの新商品(メビウスのEシリーズからスリムサイズが新登場)……………6面
- 先人の言葉①/「たばこ屋さん目線」からの川柳/江戸川柳と嗜好品②……………7面
- 「20歳未満喫煙防止」の徹底に向けた標語の入選作品決まる/組合員の皆様のスキルアップを応援します(全協の研修等案内)……………8面

全国たばこ新聞

2023年2月 February 第922号

発行元/全国たばこ販売協同組合連合会
〒105-0014 東京都港区芝1丁目6番10号
芝SIAビル7階 TEL.03(5476)7551
企画編集責任/株式会社アーネスト
〒105-0004 東京都港区新橋6-9-2
新橋第一ビル TEL.03(3432)8346

たばこ税増税

大綱では「令和6年以降の適切な時期に1本あたり3円相当のたばこ税引き上げを段階的に実施する」としています。これに対する全協の率直なお考えは?

昨年10月開催の自民党たばこ協議会では「たばこ税増税には断固反対する」という決議を全会一致で可決。決定して頂きましたが、暮れに、唐突な防衛費財源議論があり、なぜ「たばこ税」なのかという説明も一切ないままに、極めて短期間の決着が図られてしまいました。極めて残念であり、大変悔しいと思います。但し、増税の具体的実施内容については、

恒久的かつ安定的な財源になりえない

「防衛費増額の財源」としての「たばこ税増税」ということについては、どのようにお考えですか。

防衛費増額がもたらす効果は、広く国民全体に還元されるものであるにもかかわらず、これを20歳以上の約15%にしか相当しない喫煙者のみに負担を強いることは、税の公平性の観点からしても経済的・心理的に大きな問題だと思っております。また、市場縮小が続く状況下では、年々自ずと減収すること不可避免です。平成10年に国鉄清算事業団等の債務償還財源として創設された「たばこ特別税」は、平成11年度の税収が2700億円であったものが、令和2年には1100億円と減っています。たばこ税が防衛費増額のための恒久的かつ安定的な財源となりえないことは明らかです。

度重なるたばこ税増税は、お店及び喫煙者にとって

著しく不適切かつ不公平で、大問題だと思っております。また、市場縮小が続く状況下では、年々自ずと減収すること不可避免です。平成10年に国鉄清算事業団等の債務償還財源として創設された「たばこ特別税」は、平成11年度の税収が2700億円であったものが、令和2年には1100億円と減っています。たばこ税が防衛費増額のための恒久的かつ安定的な財源となりえないことは明らかです。

昨年までの5年間にわたる経年増税で、たばこの定価は大幅に上昇しました。昨今の食料品やエネルギー価格等の大幅な上昇もあり、たばこの低価格帯移行は、喫煙者の立場からは、生活防衛としての購買行動という一面があると思えます。一方で

税制改正大綱 特集

を読み解く!!

昨年暮れに「令和5(2023)年度与党税制改正大綱」が決定した。大綱には、予期せぬたばこ税増税予定のほか、たばこ業界懸念の「分煙環境整備」についても記載された。この2つの問題に絞って全協の加藤和人副会長に率直なお考えを交えながら読み解いていただいた(編集部)。



全協 副会長 加藤 和人

今後とも強まるたばこ包囲網に、心すべきことは何でしょうか。

合法的嗜好品であるたばこを喫煙する方を社会的悪者として排除することはあつてはならないことだと思えます。喫煙する権利は守らなければなりません。一方で望まない受動喫煙の防止は実現されるべき社会的要請です。こうした課題をバランスよく解決していくために、私たちは「喫煙する方と受動喫煙を受けたくない方双方の立場を尊重し、共存できる社会の実現」を目指し、具体的には「禁煙の推進」ではなく、「分煙環境の整備、推進」が極めて重要であるとの主張を展開しています。過度な規制や排除の論理は、不毛な対立を深めるばかりで、むしろ課題解決を困難にすると思えます。

分煙環境整備

大綱では「屋外分煙施設等の整備の促進」について、「地方公共団体が駅前・商店街などの場所における屋外分煙施設等」と記載されていますが、令和4年度大綱ではほぼ同じ文言ながら「地方公共団体が駅前商店街などの公共の場所における屋外分煙施設等」とあり、今回「公共」の文言が削除されています。これは、全協がたばこ協議会総会で「公共を含め民間施設等もその対象」との要請に応えたものと解釈していいのでしょうか。

これまでは、「地方たばこ税を活用した分煙環境整備」の対象が、「公共」に限定

されたような記載となっており、そのことにより、私たちの活動がなかなか具体的成果まで繋がりにくい面があったと思えます。そのため、「民間の施設や土地への分煙施設設置」も本施策の対象とできるように要望してまいりました。

総務省とも相談させていただいていますが、今回「公共」の文字が削除されたことで、公共民間を問わず対象とできることになりました。これを梃子に、更なる成果に繋がる活動を継続して行きたいと考えています。

喫煙者から「非喫煙

者よりも余分に税金(たばこ税)を払っている。その分、吸う場所がないので喫煙所を増やすなどの還元をしてほしい」、商店会等からも「喫煙所不足は客足が遠のく」といった根強い不満があるといえます。こうした声にこたえて、地方たばこ税

途限定されることには強い抵抗があります。また、税金で喫煙所を作ることに否定的な考えを持つ方も少なくありません。しかしながら、分煙環境をしっかりと整えることは、結果として喫煙者・非喫煙者の双方にメリットをもたらしますし、税収の維持・確保にも少なからず効果があるものと考えます。そして、これをたばこ税の活用によつて行うことは、とても理に適ったやり方だと思えます。今後とも、全国的な制度整備というゴールを目指して、粘り強く要望を展開してまいります。

引き続き全国的な制度整備を目指す

たばこ協議会総会で「公共を含め民間施設等もその対象」との要請に

たばこ協議会総会で「公共を含め民間施設等もその対象」との要請に

たばこ協議会総会で「公共を含め民間施設等もその対象」との要請に

2段広告

成人年齢20歳から18歳に引き下げへ 進捗する各地の分煙環境整備要望活動 「加熱式」5年連続課税方式の見直し

改正民法の施行 4月1日に成人年齢を20歳から18歳に引き下げる改正民法が施行された。18歳の成人年齢に達しても、従来の「20歳未満喫煙禁止」適用範囲は継続となった。全協では財務省警察庁の年齢確認「ポスターデザイン(写真上)の店頭用ステッカー」を全組合員に配付するとともに各



連合会でも協議会名やのぼり旗、啓発ツール等の文言を従来の「未成年者」から「20歳未満」に全面的に変更して対応。
分煙環境整備要望 地方自治体(行政議会)への地方たばこ税を活用した分煙環境整備(喫煙所設置)の陳情要望活動は、2019年10月の活動・取り組み開始から3年経過した12月末時点での累計総活動件数は1384件、首長接見333件、自治体・議会への陳情書等提出713件と着実に進展している。

総務省の通知 総務省自治税務局は1月21日付で各都道府県等に「積極的な地方たばこ税を活用した屋外分煙施設等のより一

層の整備を促す」旨の事務連絡(通知)を发出。令和2年以降3年度目の通知。
たばこ議連新体制 1月21日の自民党たばこ議員連盟の臨時総会で、山口俊二副会長が新会長、前会長の野田毅氏が特別顧問に就任したほか、新役員体制が決定。
加熱式たばこ 加熱式たばこの課税方式見直ししが10月1日に2018年以降5年連続して実施された。それに伴う定価改定は、PMJTが11月1日に実施。

3年ぶりの再開 コロナ感染症拡大の影響により多くの地域で中断されていた20歳未満喫煙防止対策協議会や美化活動等が感染防止対策に配慮しながらほぼ3年ぶりに各地で再開。
▼ステッカーの活用を!!
全協の支援策 全協は全組合員に(年齢確認(写真上)・たばこ税周知(下)・たばこ組合加入店)の店頭用ステッカーを配付。ステッカーを店頭に掲出し、お客様や地域の人々から理解と賛同を得るために活用を!!

たばこ販売実績 2021年度たばこ実績は紙巻たばこ937億本(前年比5.2%減)、加熱式たばこ460億本(11.4%増)、リトルシガー97億本(23.6%減)。加熱式たばこの市場占有率30.8%。
たばこ販売店数 2021年度(2022年3月末)現在の全国たばこ販売店数は22万9105店(前年比1.7%減)で、1985年以降最少となった。
少年補導人員 2021年の「喫煙」補導人員は9万2786人で、前年比6434人、6.5%の減少。「喫煙」は全体の30%を占めた。
自販機普及台数 2021年12月末現在のたばこ自販機普及台数は11万6千台と、前年比7千台(5.7%)の減少。2006年の56万台からの減少傾向に歯止めがかからず。(※財務省・TIOJ・警察庁・JVMA調べから)

部門別統計値



地元のヒノキ材を使用し、地元の企業が施工した喫煙所のパーティション



左から、岡崎支部の金澤伸宜支部長、JTの上村剛博支社長、岡崎市の中根康浩市長

愛知県・岡崎公園内の喫煙所を整備 パーティションは地元資材を使用するなど地産地消

愛知県組合岡崎支部とJT愛知支社

愛知県組合(今枝和義理事長)岡崎支部の金澤伸宜支部長は昨年の12月23日、岡崎市役所で行われた岡崎公園内に整備された喫煙所の寄附受納式に、JT愛知支社の上村剛博支社長と

感謝するとともに、意見交換などを行った。岡崎公園内における喫煙所の整備については、2021年7月に愛知県組合岡崎支部とJT岡崎支店(当時)が、その必要性等を中根康浩市長に説明、賛同を得ていた。さらに、2021年11月に、愛知県組合岡崎支部から岡崎市議会議員に「地方たばこ税を活用した喫煙環境整備」の陳情書を提出し、岡崎公園内の喫煙所整備などを要請した。そして2022年7月に、再度、愛知県組合岡崎支部とJT愛知支社が、中根康浩市長に岡崎公園内の喫煙環境整備について要望、市長の賛同を得たことで、トップダウンにより喫煙所整備に向けた事業が本格稼働。その結果、昨年の12月23

日に喫煙所の寄附受納式が執り行われたもの。今回の喫煙所の整備は、NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせたリニューアルとなった。また、地元企業が施工したパーティションは公園指定管理者である岡崎パブリックサービスが費用負担、JTからはメッセージボード付特大灰皿が提供された。なお、地元の資材等を利用する地産地消の発想・企画は、愛知県組合岡崎支部とJT愛知支社とが常日頃から構築している地元企業とのつながりによるもの。【岡崎公園は、岡崎城の城跡を公園にしたもので、岡崎城や三河武士の館など岡崎市を代表する歴史と文化の公園。面積は約10ヘクタール】

広告3段

加熱式たばこ 「次世代」から「新時代」へ

吸い応えの強化など進化しつつ市場拡大

加熱式たばこの伸び率は著しく、2021年度実績の市場占有率(総需に占める割合)は30%を超えたとともに、昨今では各社の専用たばこの取扱も一般販売店に拡大されるなど、かつての「次世代」を担った「新時代」を担うたばこの地位を確立しつつあるといえる。

近年のたばこ市場の構図は(紙巻たばこの減少・加熱式たばこの成長)である。

紙巻たばこは2018年10月から2021年10月までの間3回のたばこ増税、加熱式たばこは2018年10月から2022年10月までの間5年連続の課税方式の見直し(重量・価格に応じた換算)が行われており、2017年度と2021年度との実績の対比では紙巻たばこが1455億本から937億本と35.6%の大幅減だが、加熱式たばこは253億本(財務省

たばこ増税に伴うかけこみ需要の発生により第2四半期実績で数量が増えているがその反動で減少傾向が加速している。加熱式たばこは課税方式の見直しで若干の影響もあつたが、増加基調が続き、2020年度第2四半期に100億本を超え、その後、2022年度第2四半期では133億本と過去最高となっている。

あるたばこ関係者は「総需要の継続的な減少下での加熱式たばこの台頭は市場に活力を注入している。も

し、加熱式たばこがなかったとすると背筋が寒くなる。ただ、救世主ともいえる最近の加熱式たばこの成長に水を差すかのような、出た杭は打つといった批判の高まりが気になる」との評価と懸念を述べる。

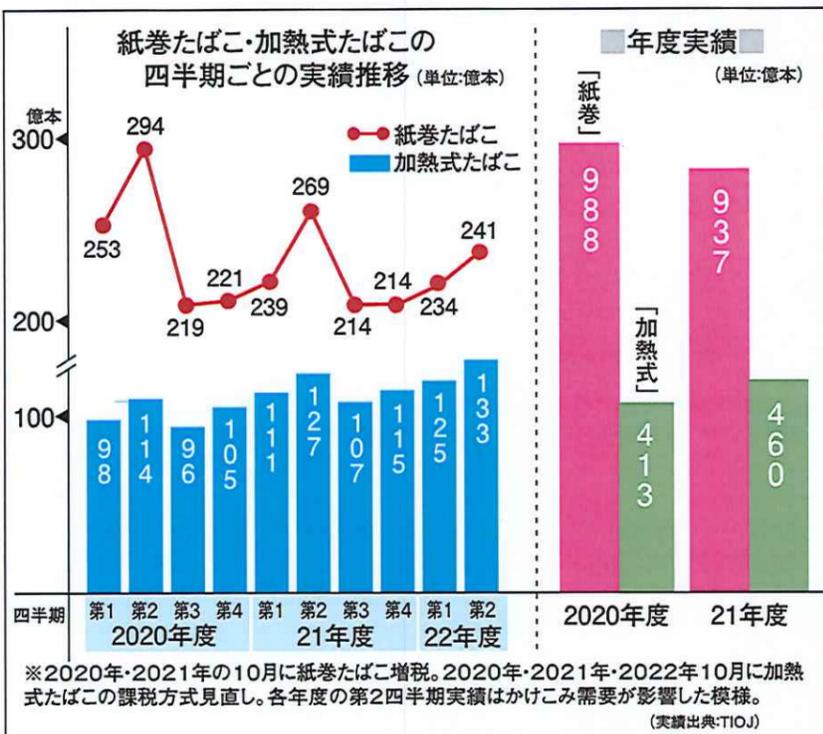
加熱式たばこが国内市場に登場したのは2014年11月の「アイコス」(PMJ)に続き、2016年3月の「プルーム・テック」(JT)、「2016年12月の「グロ」(BATJ)の順。各社とも同シリーズを拡充して、今日に至る。

たばこ葉を燃焼しないたばこや副流煙が発生せず、灰も出ない加熱式たばこは、加熱する温度によって2つに区分される。

一つは、「低温加熱型」で、たばこ葉を直接加熱せずに30℃・40℃の低温で液体(リキッド)を加熱霧化してたばこ葉を通過させる製品で、JTだけが販売している「プルーム・テック」である。もう一つは3社が発売する「高温加熱型」で、ヒーターが約300℃近くの高温でたばこ葉を直接加熱する製品である。

低温加熱型は紙巻たばこに比べほぼ無臭レベル、高温加熱型は喫味が強いことを特徴とされるが、各社ともデバイスの改善や新機能・新技術を搭載した新製品を次々と販売し、吸い応えの強化のほか、喫煙可能時間の延長や加熱の待ち時間の短縮など日々進化を遂げている。

専用たばこも、各社とも有力ブランドの銘柄を中心に「レギュラタイプ」、「メンソールタイプ」などを揃えたラインナップを図り、価格面(税込)でも450円(600円)と選択肢が広い。



※2020年・2021年の10月に紙巻たばこ増税。2020年・2021年10月に加熱式たばこの課税方式見直し。各年度の第2四半期実績はかけこみ需要が影響した模様。(実績出典:TIOJ)

「周囲への配慮が可能」、「ニオイが少ない」など

加熱式たばこを支持するお客様の胸の内は?—インターネットリサーチを展開する「ネットエイジア株」は、昨年8月に加熱式たばこに関する興味深い意識調査を行った。このうち、喫煙者の加熱式たばこに関する意識結果をピックアップしてみた。

◆周囲への配慮 喫煙者500人に「加熱式たばこであれば周囲への配慮が可能か」との問いには「そう思う」(68.6%)が全体の7割近くを占め、「そう思わない」(31.4%)は3割程度だった。「配慮が可能」と答えた喫煙者343人にその理由を聞くと「煙やニオイが少ない」(51.9%)が最も高かった。

◆併用割合 紙巻たばこを現在吸っている喫煙者315人のうち紙巻たばこ加熱式たばこを併用している喫煙者割合は29.5%、併用していない喫煙者は70.5%である。

◆切り替え 紙巻たばこを使用したことのある喫煙者463人のうち、紙巻たばこから加熱式たばこに切り替えた人の割合は28.9%、切り替えていない人は71.1%だった。切り替えた喫煙者を年代別にみると40代が最も高い。

◆吸うきっかけ 加熱式たばこを使用したことがある喫煙者323人に「吸うきっかけ」を問うと「紙巻を吸える場所が減った」(25.1%以下、複数回答)が最も高く、次いで、「友人・知人・家族から勧められた」(24.5%)、「健康を気にするようになった」(23.2%)、「吸っている人を見かける機会が増えた」(20.4%)の順。

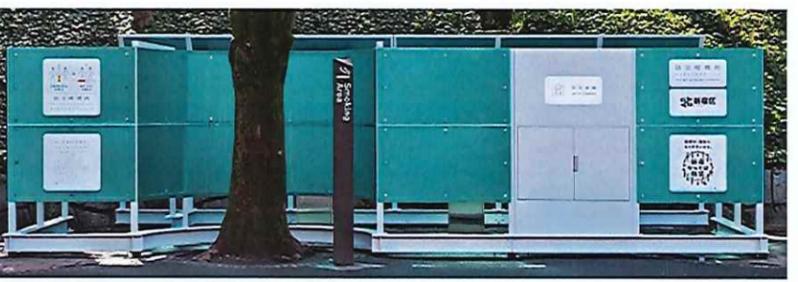
◆メリット 同じく、紙巻きたばこと比較した場合の加熱式たばこのメリットについての問いでは「灰が出ない」(54.2%)、「ニオイが少ない」(53.9%)、「部屋の空気や壁紙を汚しにくい」(52.9%)と加熱式たばこの特徴といえる点を高く評価している。

「加熱式たばこに関する意識調査」 ネットエイジア社調べ

JTの話題

「防災喫煙所 イツモモシモステーション」 東京・新宿中央公園内の喫煙所をリニューアル

JTは先ごろ、喫煙所を少しでも地域に役立てたいという想いから、東京都指定避難場所である新宿中央公園内の喫煙所を「防災喫煙所 イツモモシモステーション」としてリニューアルした。この喫煙所は、「もしも」の際に役立つ防災倉庫の機能が付与された初めての喫煙所。また、パーテーションには防災情報を盛り込んだデザインを採用している。



新宿中央公園内の「防災喫煙所 イツモモシモステーション」

「イツモ」は、パーテーションの一部を防災倉庫にするため、仕様を工夫し、「もしも」の時に帰宅が困難な方が利用できる物品保管を予定している。

また、新宿ならではの防災情報を掲出し、防災意識の向上や啓発を図るため外壁および内壁に、新宿区の防災キャンペーンである「新宿ならでは防災。」のメッセージを掲出し、「たばこを吸われる方吸われぬ方」に関わらず、「いつも」の時から防災情報を意識しやすい仕様となっている。さらに、「いつも」の時から新宿中央公園が避難場所であることを周知するだけでなく、「もしも」の時に公園を訪れた避難者にとっても有効な情報を内壁に掲載している。

東京都墨田区の錦糸町駅南口喫煙所をリニューアル 墨田区観光協会主催「みんな北斎プロジェクト」の一環 物語「本所七不思議」をテーマにモチーフ

JTは、昨年よりJTが参画している墨田区観光協会主催「みんな北斎プロジェクト」の一環として、錦糸町駅南口喫煙所を12月9日にリニューアルした。喫煙所は面積にして約70㎡と都内最大級の大きさを誇る。

この喫煙所は、墨田区で親しまれている物語「本所七不思議」をモチーフとし、漫画家しりあがり寿氏の監修、および「すみだクリエイティブ」協力のもと、障害を持つ112名の方々と一緒に、ワークショップで創作したデザインのアートを採用している。これにより、墨田区の文化を感じられるアートが壁面に広がることとなった。JTでは、「墨田区で親しまれている文化を広く世の中に発信し、「すみだ」の活性化につなげていきたい」としている。

今回のリニューアルは、墨田区、墨田区観光協会、漫画家しりあがり寿氏、江東橋三丁目町会、錦糸町を元気にする会等が連携し実現したもの。

なおJTは、「みんな北斎プロジェクト」の一環として、喫煙所リニューアルの取り組みを行っており、2021年11月に、墨田区をふるさととする葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景」のデザインアートを施した屋外喫煙所を、錦糸町駅北口及び両国駅に設置している。



錦糸町駅南口にリニューアルされた喫煙所。約70㎡と都内最大級の大きさを誇る

3月の春季全国火災予防運動 TIOJがたばこ火災防止キャンペーン 組合員に啓発ティッシュ配付



寝たばこ火災防止のターゲットは50歳以上の独身男性

おやすみ前のたばこの消火は確実に!

寝たばこ火災防止の三か条

- ☆ ふとんで吸わない
- ☆ 灰皿には水を入れて
- ☆ 消えたかどうか、絶対確認!

おやすみ前に、きちんと確かめて

ティッシュのチラシ表面④にはQRコードと「動画公開中」、裏面⑤には「三か条」

「おやすみ前のたばこの消火は確実に!」一般社団法人日本たばこ協会(TIOJ)は、今年も「令和5年春季全国火災予防運動」(3月1日~7日)にあわせて、総務省消防庁・全国消防長会(全国723消防本部の消防長で構成)の後援、全協の協力により、たばこ火災防止キャンペーンを実施する。

寝たばこ火災防止を注

寝たばこに起因する死者も多く発生している。

その中でも、(主に50歳以上の一人暮らしの男性喫煙者の寝たばこが多い)という。TIOJのキャンペーンでは、その年代の方(メインターゲット)に多くの支持を得ている「めぞん一刻」を採用し、訴求している。

たばこ販売店(組合員)には、「寝たばこ火災防止三か条」の小型チラシをセットにしたポケットティッシュ、消防機関にはリーフレット(A4サイズ)と、はさみ込みクリアファイアのツールを配り、たばこ業界と消防機関等が連携して、寝たばこ火災防止活動を全国規模で繰り広げる。たばこ販売店用ティッシュは、1月上旬に連合会から単位組合を通じて組合員に配付される。

「めぞん一刻」の人気キャラクター達を用いて火災予防を訴える動画は、ポケットティッシュやチラシなどのツールに印刷されたQRコードからTIOJのホームページにアクセスして視聴できる。

なお、TIOJの「寝たばこ火災防止」に関するたばこ火災注意喚起活動は、2011年度より消防庁、全国消防長会と協働して継続実施している。

新煙故知新

国内においても多くの喫煙者に高評価を得ているたばこは、開発当初から高級たばことして位置づけ、製造されたからだと

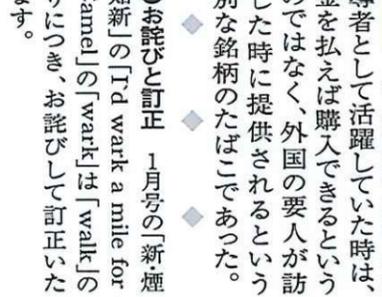
たばこ雑学講座 55

続・動物をモチーフとしたたばこパッケージ

前回の(動物をモチーフとしたたばこパッケージ)では、最も有名な「CAMEL(キヤメル)」を紹介したが、今回は中華人民共和国(以下、中国と記す)で高級紙巻たばことして販売されている「熊猫(パンダ)」を紹介しよう。

中国は14億人の人口を有し、男性の喫煙者は約30%、女性が6%といわれている。男女合計すると世界全体の喫煙者の約25%近くが中国の喫煙者といえることになるが、喫煙者の数に比例するように、たばこの銘柄も数多い。

現在、中国の高級たばこの中で日本でも有名なのが上海煙草(集団)公司の「中華」だ。この銘柄が誕生したのは1951年で、数々の受賞歴を誇り、中国



「熊猫香烟」(Panda cigarettes)のパッケージ

国内においても多くの喫煙者に高評価を得ているたばこは、開発当初から高級たばことして位置づけ、製造されたからだと

「熊猫(パンダ)」は1956年に誕生しているが、日本で注目を浴びるきっかけになったのが中国の政治家で、1978年12月から1989年11月まで同国の最高指導者として活躍し、今日の中国の経済発展の基礎を築いた鄧小平

指導者として活躍していた時は、お金を払えば購入できるといってもいいが、外国の要人が訪中した時に提供されるという特別な銘柄のたばこであった。

●お詫びと訂正 1月号の「新煙故知新」の「I'd walk a mile for a Camel」の「walk」が「walk」の誤りにつき、お詫びして訂正いたします。

たばことの出会い 太秦広隆

「あれ、あのたばこの銘柄はなんだっただろう!」この映画に度々喫煙シーンが登場するので、とても気になってしまった。犯人を追いかける刑事が吸うシーン。やがて犯人となる人物が料亭で吸うシーン等々。ふと、そう思った。

私が観ていたのは、皆さんご存知の松本清張原作の「点と線」。

パッケージを見ると、「九五八年製作」とあった。昭和三十年代前半だ。そう分かったら、当時の記憶がよみがえった。子どものころから、我が家には多くのたばこがあったからだ。あらためて、銘柄を確認するため、巻き戻してそのシーンをストップ機能で静止画にし、ジッと見入った。モノクロなのでたばこの銘柄までは読み取れなかったが、両切りたばこであることを分かった。

あの頃、我が家にはたばこがなかった。両親は「しんせい」「ピース」だった。

今は愛煙家として「メビウス」が手放せない一人ですが、私の実家はたばこ屋だったので、商売人の子どもとして、親の背中をみて育ちました。多くの雑誌類を扱っている、いわゆる田舎の高層。正月休みを除き、年中無休で両親が忙しそうにしていた。子ども心に「親にかまってもえなかつたので、一般家庭の同級生が羨ましくて仕方なかった」と当時はそう思っていました。おかげさまで、自分でできることは自分でやるようになった。小学校のころ、体操着にネームの縫い付けをしたことがあった。

父は愛煙家でした。が、そのころの銘柄までは思い出せません。あのころ、周りの大人の男性はほとんどたばこを吸っていました。

た。ここで、たばこ屋の子どもの記憶に、記憶にある鮮明な思い出を語りたと思います。

まずは、物心がついたころの話。母親から「たばこ種類ごとに数えておいて」と言われ、銘柄別に、個数、箱数を数えメモし、それを母親に渡していました。それをもとに母親が夜なべをしなが、仕入帳みたいなノートに、五つ玉の大きめの算盤をはじきながら、数字を書き込みしていました。母親は「明日、専売公社が注文取りにくるからね」と。ノートを覗き込むと、タテの欄に「たばこの銘柄」が、ヨコの欄に「仕入れ個数」「在庫個数」「売上個数」「注文個数」などが記してありました。こういうことをしながら、「仕入れの個数を決めていんだな」

と。商売人のイロハを覚えたのではないかと思えます。

次は、小学校一年の恩師の思い出から。担任の先生はヘビースモーカーでした。先生からよくたばこのお使いを頼まれていました。「明日、たばこを〇個持ってきて」と。翌日、登校する際に、先生のたばこを持参し、先生に渡して代金を受取ることに繰り返しでした。ちなみに銘柄は「しんせい」でした。

実はこれには後日談がありまして。少し長くなりますがお付き合いください。

大学を卒業し、都内でサラリーマンをしているころ、父親が実家の町内会の方々と日光へ旅行の途中、浅草のホテルに宿泊するといふことを聞き、ホテルに向きました。父親はメンバーの皆さんと宴会の真の最中。皆さんに挨拶をし、見渡すとそのメンバーの中に、

小学校一年の担任の先生にそっくりの人がいました。その人に近づき、「〇〇先生ではないですか」とお聞きしたところ、「そうです」と。続けて先生は「あなたがきょう来ることを、おとうさんから聞いていた。久しぶりに会えるのを楽しみにしていたよ」。約二十年ぶりの恩師との再会に会話が弾みました。

「ところで、先生から、たばこのお使いを頼まれましたが、覚えていらつしやいますか」と尋ねてみました。先生は覚えていたのだらうかと心配していたが、すると、先生から覚えていたのだらうかと、お褒めの言葉が返ってきました。「最初にお使いを頼んだ時だったけど、あなたが先生のたばこはしんせいですよ。二個だと〇〇円です」と、あなたが私にそう言ったよ」と。続けて「さすがに商売人の子どもだねと感心したね。たばこの銘柄も価格を言わなかったけれど、私が吸っているたばこが何か、価格はいくらかをあなたは分かっていた。さすがだった」と。教育に身を置く方は、子どもの二挙手一投足をこのように見ていたんだとあらためて頭が下がる思いでした。恩師からこの年齢になって通信簿をもらったと感慨深い思い出です。

振り返ってみると、たばこ販売する側と、愛煙家としてのたばこを買う側の両方の立場から、「たばこ」との長い付き合いがありました。

両親の後姿をおおして、時代の出来事にも負けず頑張ってこられた読者の皆さんの気持ち、そして「たばこ」への熱い愛情を感じました。一方、大人になって愛煙家となった私の「たばこ」への思い、そしてほぼ毎日、街のたばこ屋に通っている私がお店でお会いしたたばこ屋の様々な思い出が多くあります。これらを次回から、お話ししていきます。

入選作品(全協会長賞・日本たばこ協会賞など)決まる

「20歳未満の喫煙防止」の徹底に向けた標語

「20歳未満の喫煙防止」の徹底に向けた標語・入選作品

【二十歳との表記は、「ハタチ」と読み代えてください】

成人です。いいえ、たばこは二十歳から
松本世津子さん(埼玉県)

新成人たばこの味は二十歳から
久米義輝さん(長野県)

18歳、19歳は入れて当然「投票箱」
触れてはいけない「たばこの箱」
木戸良吉さん(北海道)

酒、たばこ今も昔も二十歳から
玉川久子さん(兵庫県)

★全協会長賞★

★全協会長賞★

守りましょうたばこも酒も二十歳から
藤原まきさん(兵庫県)

喫煙の愉しみは二十歳になるまでとっておく
後藤洋さん(三重県)

18歳から清き一票「政治に貢献」
二十歳から地元に貢献「たばこ税」
加藤ハツエさん(神奈川県)

18歳たばこは吸わない大人の自覚
松本世津子さん(埼玉県)

★日本たばこ協会賞★

全協・ 全国たばこ新聞

NO **UNDER 20**
20歳未満の喫煙は法律で禁じられています。

20歳未満喫煙防止強化月間
7月1日～7月31日

たばこ店頭訴求ツール(日本たばこ協会)

「20歳未満の喫煙防止標語」選考委員会
(敬称略・順不同)
●委員長 加藤和人・副会長
●委員 武田基樹・統括部長/北野裕朗・企画部長
松宮昭夫・経理部長/大平将史・企画部副部長/藤内
崇史・企画部次長/大澤一恵・企画部

本紙では、全協の協力を得て、昨年の8月から「20歳未満の喫煙防止」についての標語を募集。昨年の12月末日に締め切られた。その後、第一次・第二次審査を経た最終審査の結果、このほど入選作品が発表され、全協会長賞1点、全協特別賞6点、日本たばこ協会賞1点が決定された(入選作品は別掲参照)。

応募標語数は1396フレーズ
今回の標語募集には、全国から432名、1396フレーズの応募があり、2回にわたる予備審査を経て、全協内に組織された「20歳未満の喫煙防止」についての標語選考委員会(委員長 加藤和人副会長・委員会のメンバーは別掲)による厳選なる最終審査が行われた。また国内のたばこメーカー等で組織されている一般社団法人日本たばこ協会も「20歳未満の喫煙防止」の活動に取り組んでいることから、今回の標語募集に賛同、審査に加わった。

20歳未満の喫煙防止については、民法改正により2022年(令和4年)4月1日から成年年齢が20歳から18歳に引下げられ、18歳、19歳は成年(成人)として扱われることになり、さまざまなことができるようになった。だが、成年年齢が18歳になっても、飲酒や喫煙、競馬などの公営競技に関する年齢制限は、これまでと変わらず20歳のまま、つまり、「18歳、19歳は、成人なのだが、喫煙や飲酒などは禁止されている。」
しかし、昨年行われた国立がん研究センターの調査では、「18歳、19歳の喫煙が禁じられている」ことについて、20歳以上の15.3%が「知らなかった」、16.1%が「あまりよく知らなかった」との結果が出ており、「18歳、19歳は成人なのだが、まだ、たばこは吸ってはいけない」ということが、広く認知されていないという状況が生じていた。

組合員の皆様の「スキルアップ」を応援します!!

全国たばこ販売協同組合連合会

◆「通信教育講座」と「パソコン研修(教室)」のご案内◆

全協では、2023年度「通信教育講座」と「パソコン研修(教室)」を受講する皆様に受講料を助成致します。受講対象者は、講座・研修(教室)を受講する「組合員及び組合員と同居している後継者(予定者を含む)」です。是非この機会を皆様のスキルアップにお役立てください。

※詳細は所属組合または連合会にお問い合わせください。

【通信教育講座】

所属組合または連合会に申込方法をご確認の上、30コースよりご希望のコースを選択してください。

講座修了者には、受講料の80%を助成金としてお支払い致します。

- 第一次申込期間:2023年2月1日(水)～3月15日(水)
※第二次申込期間については秋期を予定
- 受講開始:2023年4月1日(土)～
※テキスト等が到着次第スタート
- 助成金申請:2024年3月8日(金)まで
※全協必着



【パソコン研修(教室)】

最寄りのパソコン教室で、希望するコースを選択してください。

研修修了者には、受講料の全額(2万円を上限)を助成金としてお支払い致します。

- 申込開始/開講:2023年4月3日(月)～
- 助成金申請:2024年3月8日(金)まで
※全協必着

